

こんねんどびょうご
今年度標語

「ヤコブは次の朝早く起きて、枕にしていた石を取り、それを記念碑として立て、先端に油を注いで、その場所をベテル（神の家）と名付けた。

（創世記28:18.19）

2021年1月1日

あ どう がん たん れい おが
合同元旦礼拝

しかい はやさか きよし そうがく のぶ 恵
司会：早坂 潔 奏楽：松村宣恵

ぜん そう 前奏		そうがくしや 奏楽者
さんびか 讃美歌	85	いち どう 一同
いのり 祈り		
せいしょ 聖書	マルコ福音書6章53～56節 (新約聖書73頁)	
さんびか 讃美歌	355	いち どう 一同
せつきょう 説教	「イエスを待つ人々の広場—アゴラ」 五味 一 牧師	いち どう 一同
さんびか 讃美歌	431	いち どう 一同
けんきん かんしゃ 献金と感謝の祈り		
しゅいの 主の祈り	62	いち どう 一同
しょうえい 頌栄		いち どう 一同
しゅくとう 祝福		牧師
こうそう 後奏		そうがくしや 奏楽者
ほうこく 報告		

あたらし 新しく来られた方 ひき 久しぶりの方の しょうかい 紹介

しんねん 新年 おめでとうございます
ことし 今年も しゅ 主イエスに ますも 守られて
しゅ あつ もの いっしょ あか
主に集められた者が、一緒に、明るく、
あたた まじ だ
暖かい交わりをつくり出しましょう。

【次週の予定】

◇主日礼拝

- ・1月3日(日) 午後2時
- ・聖書 エレミヤ書31章15～17節
(旧約聖書1235頁)
- ・マタイ福音書2章16～23節
(新約聖書3頁)
- ・説教 「貧しく、小さな村へ」 五味 一 牧師
- ・讃美歌 275、280

☆☆☆ 新年から浦河教会の主日礼拝、祈祷会は、
すべて会場を『カフェ・ぶらぶら』に移します。

♪本日の讃美歌♪

♪讃美歌355「主をほめよ わが心」。作詞はイギリス人医師ロバート・ブリッジス(1844-1930)とされていますが、おそらくスコットランド人のウィリアム・キースの詩をもとに作ったのであろうといわれています。キース(？-1600頃)についての詳細不明。曲もフランツ・ヨーゼフ・ハイドンか、弟のヨハン・ミヒャエル・ハイドンのものか不明です

#讃美歌431「喜ばしい声ひびかせ」。作詞は、メソジスト教会設立者ジョン・ウエスレーの弟チャールズ・ウエスレー(1707-88)。安息の年を7回繰り返した翌年、すなわち50年目が「ヨベルの年」(レビ記25:8以下)。ヨベルの年は、すべてがリセットされる救いの年です。作曲はルイス・エドソン(1748-1820)。イギリスからアメリカへ渡った初期の移民の子、鍛冶を職業としながら音楽を学び讃美歌の曲も多く作りました。

☆新会堂と付属住居建築、納骨堂建立の予定☆

現在、建物の基本的な考え方、設計は完了し、実際に建築するための実施設計に入っています。これが終わると、1月に「このような建物を建てます」という「建築確認申請」を日高振興局に出します。同時に、その建物を建てる経費はいくらか「施工見積」を計算します。

「建築確認申請」の承認が得られると、建築工事をする業者との間で、『この建物を、この金額で建てる』という「施工請負契約」を結びます。その準備に2月から入り、3月中には、新会堂建築に着工します。

このため、旧会堂は、正月が明けると1月半ばごろから解体がはじまる予定です。

建築工事は、3月から9月まで行い、テスト期間を見て、9月末には完成です。問題が見つからなければ10月中旬ごろ、新会堂を神にささげる献堂式＝奉獻礼拝を行います。

献堂式は、教会の設立と同じように大きな喜びです。会堂建築を覚えて献金、募金、祈り、励ましなど、ご尽力下さった方々、地区・教区・教団、関係団体、地域の関係者等にお知らせして、教会員みんなで行います。今から覚えて、祈りつつ準備していきましょう。

頌栄 キリストの平和が

1. キリストのへいわが わたしたちのこころのすみずみにまでゆきわたりますように
5. キリストのゆるしが わたしたちのこころのすみずみにまでゆき わたりますように

「イエスを待つ人々の広場—アゴラ」

2021.元旦
マルコ 6:53-56

2021 年元旦。新年おめでとうございます。皆様の上に、そしてすべての人の上に、わたしたちと共におられる神の祝福を祈ります。2021 年は、浦河の教会にとって記念すべき年になります。これまで準備して来た新会堂の建築は年度内には着工します。順調に進めば 9 月には完成し、10 月に献堂式になります。

こうした見通しのうえで、みなさんと共に一つの確認をしたいと願っています。わたしたちの宣教の目標は、「教会堂と付属住宅の建築、そして納骨堂の建立」に終わるものではありません。これは一里塚に過ぎません。新会堂が完成した先には、わたしたちが神さまから与えられた会堂を、さまざまな苦勞を抱えている仲間たちや地域の人たちと、どのように用いるかという務めが託されています。

教会と訳されている言葉は「エクレシア」です。エクレシアは「集められた人々」「集会」です。そこから「神が招集した集会」「教会」としています。不思議なことに、イエスはこの言葉を使っていません。これを多く使っているのは、地中海世界に出て行った使徒パウロです。当初、「主によって集められた集会」を指していましたが、やがてキリスト者の集まりが会堂を持つようになると、キリスト教の礼拝や儀式を行う場所と、固定化して見られるようになりました。第 2 次大戦後、教会はこうしたイメージを変えるために、「教会は集まりである」、「神の民の群れである」など、本来の姿を取り戻そうと努力してきました。クリスチャンセンターもその一つです。

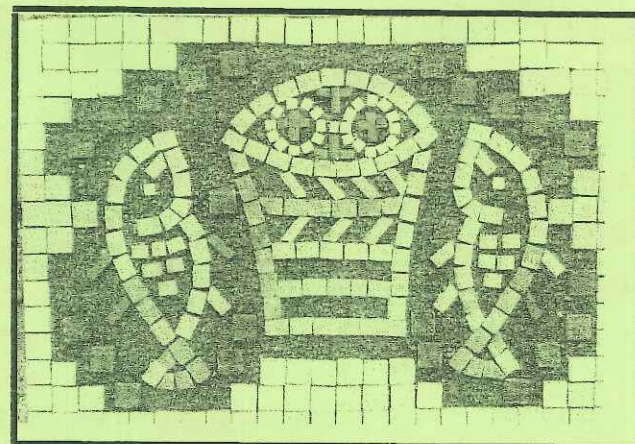
福音書の中で、イエスの働きの間となった重要なところがあります。それが「広場」「市場」と訳されている『アゴラ』です。アゴラも、もとは「集会」「集まり」でした。それは町中の誰でも知っている「子どもの遊び場」、「出店の場所」、「集まりの場所」、「もめごとの裁きの場」、「仕事を探す労働者のたまり場」など、だれでも、自由に集まって飲み食いし、おしゃべりの出来る、開かれた広場でした。旅人であったイエスも、この広場にたびたび導かれ、そこで運ばれてきた人々をいやしました(マルコ 6:53-56)。或いは、夜明けに出かけて行き、「仕事を求める労働者が、手配師によって畑に送られていく様」を、見ていました。

クリスマスで明らかになった神の約束は、いつ、どこでも、だれにでも実現した神の恵みです。わたしたちの神は、全年齢、全領域、全時代の人々と共におられます。新会堂の完成は、神が浦河教会にお与えくださる大きな恵みです。わたしたちは新会堂を、すべての人に開かれたアゴラのような神の広場として、イエスから託された務めを、教会の仲間や元浦河教会、地区・教区・そこに集まる人たち、地域の人たちの助けを借りて、共に担って行くことを確認しつつ、祈っていきましょう。

日本キリスト教団浦河教会

週報

2021 年 1 月 1 日



教会創立 1956 年

〒057-0022

北海道浦河郡浦河町昌平町東通 32

電話 (FAX) 0146-22-2904

牧師 五味 一

電話 (FAX) 0146-26-3043